台湾の旅日記から

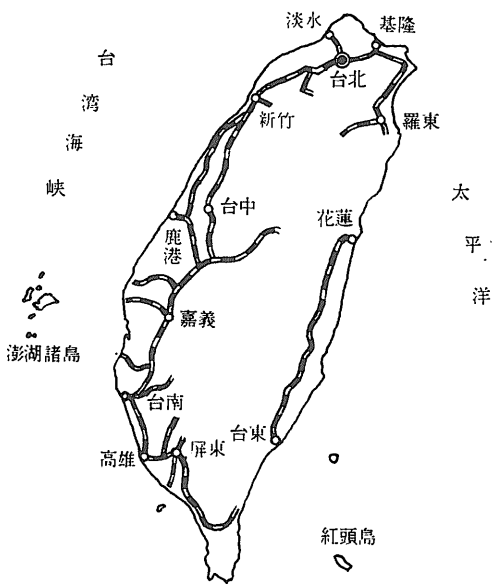
小谷良隆

台湾の建物や施設や人々に　日本が残して去った足跡は　だいぶ薄らいだとはいえ　まだかなりはっきりと残っている．　しかし　ごく一部の人々を除けば　台湾から日本を見る目は　昔の思い出ではなく現実的なものである．　昔を知らぬせいもあろうが　私は過去の旧縁を堀り起こすよりも　現在の台湾をなるべくよく理解しようと努めてみた．　短い旅の日記から　幾つか抜き書きしたのが　このレポートである．

・官庁都市

このところ官庁移転が話題になっているおりから　台湾では一足お先に官庁のニュータウンができているのでその様子を紹介しよう．

蔣総統の率いる中華民国政府が来島（1949）して以来台北には臨時首都という性格が強くなり　台湾省政府と省議会とは　1958年に台中郊外に　官庁都市を建設して台北から移転した．　場所は台中から日月潭（湖）へ行くハイウェーの沿線で台湾のほぼ中央にあたる．　緑に包まれたなだらかな丘陵地帯のすそに造成されたもので庁舎と公共施設と宿舎との３つのゾーンからなっている．省議会と省政府とはやや離れているが　省政府の数官庁は数100m の間隔をもってそれぞれ独立した鉄筋コンクリートの明るい庁舎である．　庁舎群を中核として　隣接する公共施設区域には銀行　郵便局　警察　診療所　公会堂　グラウンド（フィールド及びバスケットコート）　購買部　外来宿舎　消防署　幼稚園　小・中学校等がある．　最外周が宿舎群で　独身者アパートや世帯用住宅がある．　もちろん　上下水道は完備し世帯用住宅はバス　水洗トイレ付きである．　さすがに冷房までには至っていないが　窓も出入口も作りつけの網戸がついているので　開放して扇風機でも回せばじゅうぶん涼しいらしい．　道路はすべて舗装され　歩道には並木が植えてあり　庁舎や公共施設地区では道路のわきが芝生と植込みになっていて　広々としたものである．



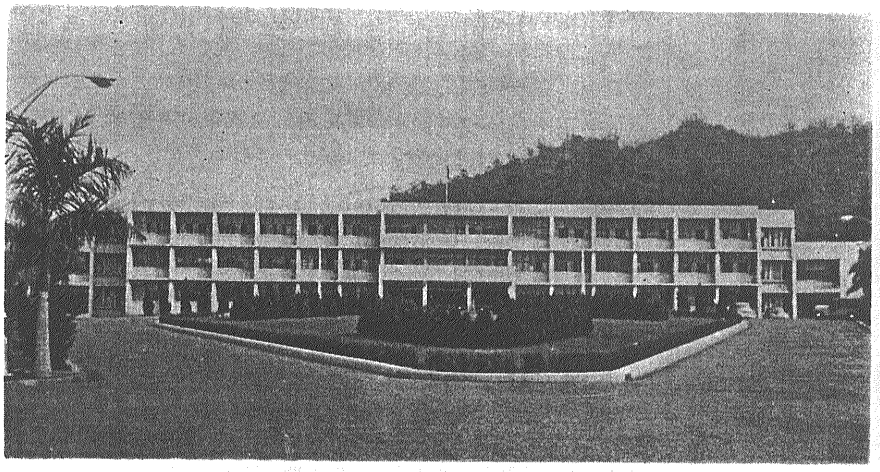
通勤は徒歩　自転車　通勤用構内バスの３本立てで通勤用バスは朝　昼（昼食）夕のみ運行し無料である．マイカー族はなく　騒音禁止なのでバイク族の現われるおそれは無さそうである．　完全に省政府の職員　家族のために建設されたところという特色のほか　個人的な商業活動が厳重に規制されていることも異色であって特認の輪タクとわずかな食料品店および飲食店だけが台湾らしい雰囲気を作っている．

このように全く別世界とも思えるモデルタウンではあるし　気候的にも北部と南部とを平均したような傾向があって　“台湾随一の健康地”という居住者の言には実感があった．　ただ　娯楽が公会堂の映画(常設ではない)や素人芝居だけというのは　いささかご清潔に過ぎるのではないかと思われた．　その点を亭主族や奥さん達にたずねてみたところ　奥さん達は文化生活でしかも亭主が道草を食う余地のない環境にご満悦らしいが　亭主にとっては　１時間に数回　台中までバスが走っているとはいえ　移り住んでから10年ではまだやはり一種の隔絶感がつきまとうこともあるらしい．　国禁の麻雀がここでは許可されているというのも政府の思いやりであろう．

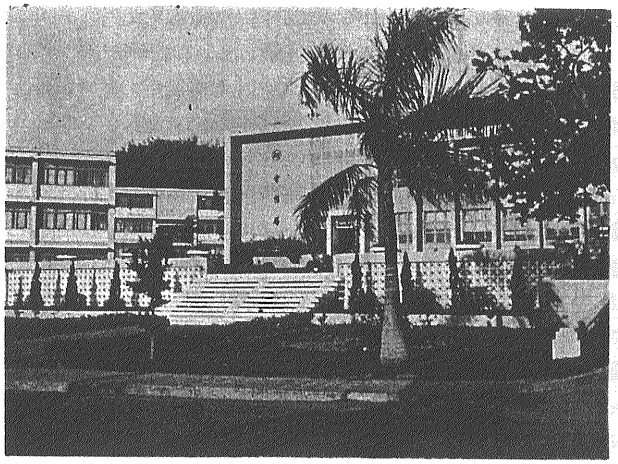
私が訪れた時　グラウンドで職域対抗運動会の練習が行なわれていた．　快晴の午後　白一色の集団はなかなかみごとな光景であった．

・高山（高砂）族の人たち

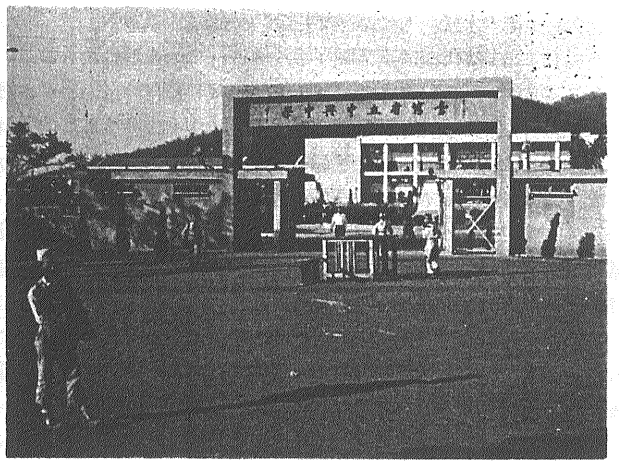
戦前派　戦中派の日本人には高砂族という名は懐しいことであろう．　台湾の原住民であるこの人々は現在約20万人といわれ900万余の本省（台湾）人　200万余の



台湾省政府のメインオフィス
新興国的なムードがある
（中興新村にて）



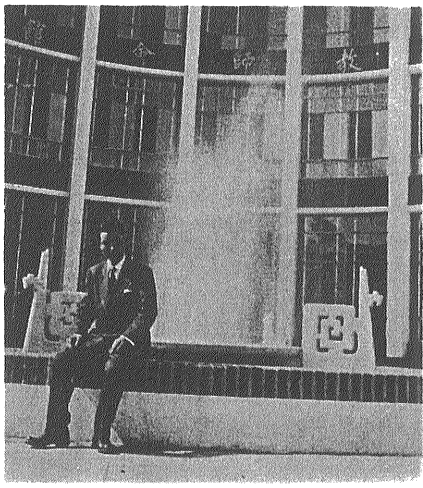
官庁都市の中心部　正面は電報局



官庁都市にある中学校　生徒はＧＩスタイルである　　中学校は義務制でなく　進学補習の是非が論議されているのは　どこかの国とおなじ

駐華日本大使館のオフィス

リンタクの駐車場　リンタクは退役軍人の有力な生業で　タクシー増車に反対する強力な圧力団体である　　緬張りがあり　客が流しを利用すると　たちまち抗議～乗り換えという運びになる
（台北）



日月潭の学校共済保養所前にて 小谷技官

外省（大陸）人に比べて完全に少数民族である．

日本時代の政策が現在も踏襲されて　彼らのおもな居住地である山地と平地との境界には　警官の派出所があり　山地への立入り許可証を提示しなくてはならない．

これは悪質商人などから純真な高山の人々を保護することと　山地での事故を防ぐことを目的としているのであろう（工作分子の潜入防止もあるかもしれないが）．部落には公営の物品販売所があって　彼らのために専用の煙草　酒などの廉価品が供給されている．

山地へ入る場合には彼らが道案内兼ポーターとして雇われる．　年配者はワラジ　青年はズック靴である．荷物をかつぐ時　平地人は天秤棒を愛用するが彼らは背負うのが常である．　生業は農業　山地労働および狩猟で忍者なみの驚くべき耐久力を備えているらしく　高砂義勇隊として勇名をはせた活躍がしのばれる．　ナタを腰にして　山中深く点々とワナをかけ　鹿　猪　猿　兎　鳥などを捕え　一部を食べて余りは塩漬にして部落に持ち帰る．　また子猿やリスは籠に入れて都市や観光地に運び　外人客相手に売っている．

高山族は８種類からなり　それぞれ独自の言語を使うので日本語が共通語になっている．　おかげで山地を通るバスの車掌は日本語を解しなくてはつとまらない．

表面上はともかく　現実には彼らの大部分は平地人よりも知的　経済的に下位にあり　いうなればかつての〝部落民〟あるいはアイヌの人たち〟にも似た立場におかれているためか　女性にとって平地人と結婚することが１つの夢らしく　一方　大陸から来島した退役軍人は結婚難の傾向があるので　両者が結ばれる例が少なくないらしい．　山地の部落で　彼女らが大陸のことばを話す彼氏とむつまじく連れだっているのはほほえましい姿であった．　日本の「三チャン農業」にも似て　若い人たちは漸次平地に住みつつあり　やがては中国語が日本語に代ることであろう．　しかし　鉱床調査に何人かを雇った時　老人から「天皇陛下はお元気か？」とたずねられた瞬間の何とも云えぬ感動と　私が持参した東京のスライドをローソクの光にすかして見入っている彼らの姿とを今もありありと思い出すのである．

・こ　と　ば

1．日本語

新聞などによると台湾ではだいたい30才以上の人は日本語を解し　一般に日本語習得の意慾が強いということになっている．　新聞に“日本語教えます”という意味の広告がズラリと並んでいるのを見ても　そのことはうなずけるし　若い女性に怪しげな英語で話しかけたら“あなた日本語わかりますか？”と問い返されて困ったことがある．　また市役所で庁内での日本語使用禁止にしたり　新聞の社説に“日本語を使うことを恥じよ！”と主張されたりしているのを見ても日本語の人気がうかがわれる．　しかし　これから台湾を訪れる人が　ことばの点で頭から安心しきっていていいだろうか（？）

たとえば台北の場合　台北駅の北側一帯は日本時代から台湾の人々が多いので　たしかに日本語で間に合うことも多いが　都心にあたる南側には大陸人がかなり多く目抜き通りの店では日本語では心細い．　もっとも　ホテルでは日本語で足りるし　見物や買物につき合ってくれる通訳を得ることは　むずかしくないからその人たちにくっついている分には心配はない．　ただ　１人で歩き回るつもりなら日本語だけでは頼りにならないというのが私の印象であった．　だいいち　仕事のためならとも角　自由な時間に30才以上の人としか話ができないというのでは　およそ淋しい限りではないか！

2．中国語

中華民国政府の来島によって台湾　とくに台北周辺は四百余州の縮図となった．　おかげで胃袋に自信のある人なら中国各地の特色をもった味覚を手っとり早くたんのうすることができる．　ところが食物だけでなく中国語の方も一堂に会しているので面倒なことになる．

標準語は北京官話と定められていて　学校教育はこれによっているが　昔から台湾におる人はどうしても福建語や客家語などを愛用し勝ちだし　大陸からきた人でも各地方のことばがあるので　北京官話を正確にこなせるとは限らない．　いわゆる京劇は中国の代表的な演劇とされ　台湾でも上演されているが　この様な事情から観客は　主として北部出身の人々であって　他地方の人々はわれわれと同様に　セリフがわからないということも珍しくない．　大陸の広さを視覚でとらえるには　中国

真紅の旗をかかげて高校生の大行進　メーデーにあらず　1月1日の朝である（台北）

総統府前に向う　女子高校生のパレード　　ブラスバンドを先頭になかなかいさましい（1月1日台北）

中国名物の爆竹屋　ローソク　線香など祭祀用具も売っている　　台の前下の紙束は　お供えの紙幣（もちろんただの紙）である　（旧暦12月31日台北）

この店は果物　菓子　タバコを売るほか　ミルクホールとウドン屋を兼ねている　　お歳暮用の瓶入ミカンや　缶入ビスケットなどよく売れる　　西瓜　パパイヤの切売りもする（台北）

ボール大のアゲマンジウ（手前）と　パインジュース（向う側）の屋台（台北）

雑誌屋　大版のグラフ誌や大衆小説を売っている　亭子脚（歩廊）があるので　露天には便利である　　亭子脚での営業は　禁止されているともいわれているが　タバコ　宝くじ　雑貨など　いろいろある（台北）

本土を訪れるほかはない．　しかし中国の大きさと　それから派生する様々な問題の複雑さを知る機会は小さな台湾でも得られるのである．　ともあれ　文字が共通でありながらラジオも中国映画も　列車のアナウンスなども福建語と北京官話との２本立てというのは頭の痛いことであろう．

3．英　語

新聞には日本語とともに英語教授の広告もかなり見うけられる．　しかし英語へのなじみは日本の方が深いように思われる．　日本時代に英語教育が奨励されたとは思えないし　英語を話す外人たちと接触するのは　中央政府の人たちや観光業者などに限られているので　無理もなかろうが　一つには漢字の国ということもあるのではないかと考えた．　カッコつきで原語を付記した親切な場合もあるが　そういう例は全体から見るとほんのわずかである．

外来語を漢字化する場合　発音によったり　意味によったりで　同一の原語が幾つにも訳されるものもあるし　とくにこの頃のように次々と新しい商品や技術が登場すると急場しのぎ的な迷訳もあるらしい．　ありふれた例でも維他命（ビタミン）などは音意かね備えた苦心の作であろうが土司（トースト）や爵士（ジャズ）などになると喫茶店へクイズを解きに入るようなもので　その気になって取り組むと結構たのしめる．　ことに人名や新興国名などは現地の人たちが嘆くほど難解で　同じ字でも発音が日本と違うものに出あうと　同文の国の人間も怪しげなものとなり　新聞を読むのに英字紙を辞書代わりに使わねばならなくなる．

日本でカナ文字の功罪がいろいろの立場で論議されているが　外来語を原語を使わずに表現する時の手軽さを考えるとカナ字を考案した人の黄金像を建て　税金で祝ってもじゅうぶんおつりがくるだろう．

・戦　時　体　制

平和ムードのさなかにいかめしい話は不似合だが　徴兵制によって大陸反攻の剣を磨きつづける台湾では　川中島を上回る15年間　戒厳令がしかれ国防上の利益が最も重視されている．　長期にわたっているせいか市民の日常生活にはとりたてて制約もないので観光客の目には映りにくいが　たとえば　賛否にかかわらず共産主義に関する談話・文章は一切禁止　無線機器（ラジオ　テープレコーダー等を含む）の所持届出制（外国人でも）　内外出版物地図の規制　短波送受信の禁止　写真の撮影制限　通信検閲などが行なわれている．

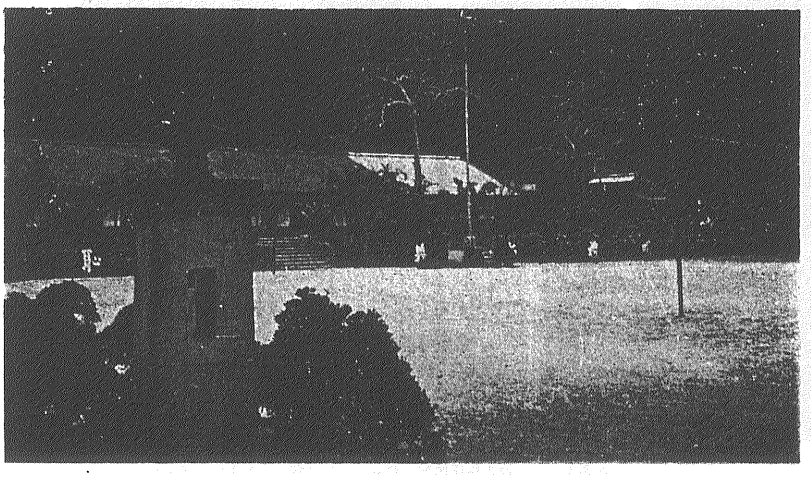
日本の新聞で市販されているのは内外タイムスだけというのは周知のことであるが　在留邦人は届出制によって一定の種類（約30種）の新聞類を購読できる．　奇妙なのは娯楽雑誌の付録である歌謡曲集が輸入禁止になっていることで　うっかり付録目あてに“平凡”“明星”などを買うと失望することになる．

いろいろな制限のうち　日本人にとって最も関係の深いのは写真撮影であろう（お定まりの観光ルートを見る分には問題はない）．　港湾　飛行場　軍事施設　重要工場には禁止公告の制札があるが　俯瞰や海岸線なども原則として禁止されているので　市街地以外ではシャッターが重くなる．　他の面では日本人に似たところの多い台湾の人たちが　あまりカメラをブラ下げていないのは必ずしも高価という理由だけではなさそうである．

・中 国 地 質 学 会

私の滞在中　地質学会の年次総会に飛入りで参加することができたので　その模様を紹介してレポートをしめくくることにしたい．

参会者は約70名　外国人は数名の米国人と私とであった．　来賓として文部大臣　中央政府礦業司長　石油公司幹部等を迎え　会は国旗と孫文先生の像に対する三拝



高山族の部落にある小学校　胸像は孫文（日月潭）

で開始された．　来賓祝辞につづく研究発表や討論はいずこも同じであるが　講演時間が正確に守られ　ベルとともに発言が停止されるのは気持がよかった．　発表の内容は主として純粋研究であるが　石油公司から新油層の発見についての報告もあった．　また物理探査の結果も発表された．　私の印象では学会の中核をなしているのは台湾大学地質系　地質調査所および石油公司で　とくに石油公司の若い人々の活発な動きが目立った．

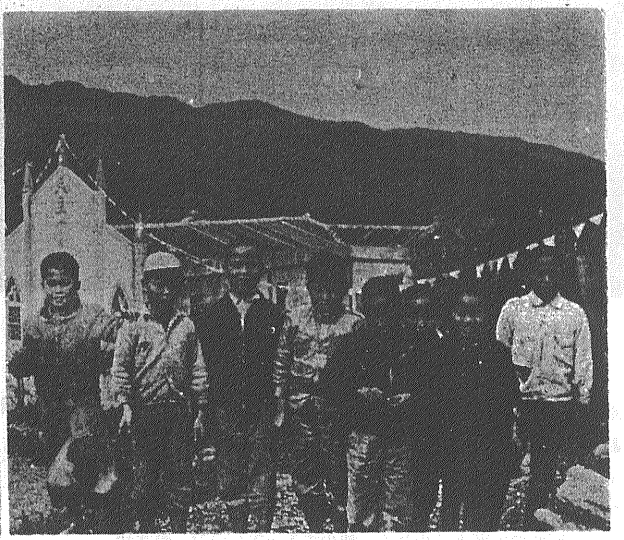
会は１日で終了し　地質調査所の主催による懇談会は全員出席してなごやかに行なわれた．　野外見学は当時建設中の石門ダムで　夫人同伴のバス旅行は車中　隠し芸の被露などがあり　楽しい思い出となっている．

石門ダムは台北からバスで１時間　アースダムとしては東洋一の規模をもつとのことである．　内閣に建設機関を特設し８年を要して昨年末に完成したものである．堰堤の高さ150m　長さ360m　底幅520mあり　多目的で　発電（９万kW）　河川の水量調節および農業用水に利用されるが　観光資源としても役立つことであろう．　山間のダムではなく平野であり　しかも地質条件が悪いため日本時代には断念されたもので　建設に８年を要したのも　当初アーチダムという予定を工事の途中で変更するなどの困難があったためである．

……

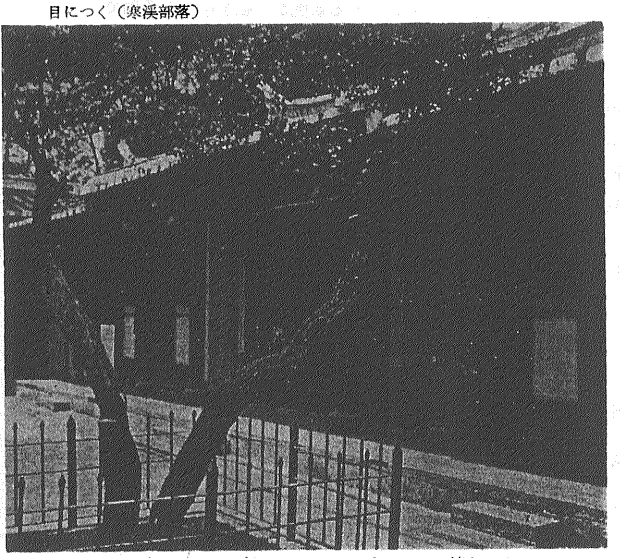
台湾の感想を一言で表わせば“近くて遠い国”であった．南北朝鮮についても同じではないかと思う．　多くの留学生を迎え　多くの人々が訪れるこれらの国々は　政治情勢のいかんにかかわらず　あらゆる面で将来もわれわれと深い関係をもつことであろう．　お互いの利益を守りつつ　現実を理解し合って完全に“近い国”であるために　このレポートが多少ともお役に立つことを念願するものである．（筆者は物理探査部）

東西横断道路　一方交通のため待合わせしているバス　有力な観光ルートであるが　レジャーよりも仕事といった　お客ばかり



高山族の子供たち　背景は天守堂　いなかではキリスト教の活躍が目につく（寒溪部落）

防諜　反共の看板　共産分子も反省自覚すれば　許すということである（花蓮駅前にて）



明朝の鄭成功　鄭成功（国姓爺）の母の期地　鄭成功は台湾をオランダ人から奪回した　その母は日本人であったという（台南市）